

ヘンテコリンな根、茎、葉

植物のからだは根、茎、葉からできています。ところが世界の植物の中には、とんでもない根、茎、葉をもつ植物がいるのです。温室でヘンテコリンな根、茎、葉をもつ植物をかんさつしてみよう。



ふつう土のなかであって、植物のからだをささえたり、水や養分を取り入れる役わりがあります。

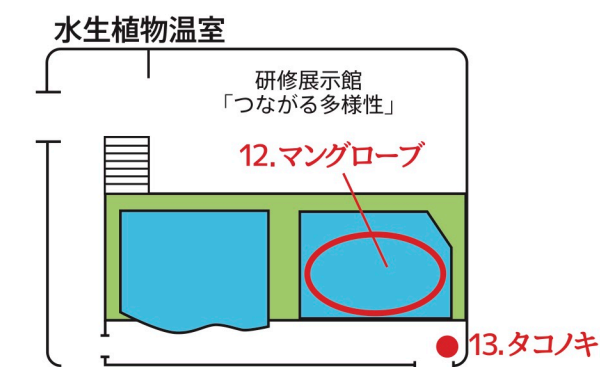
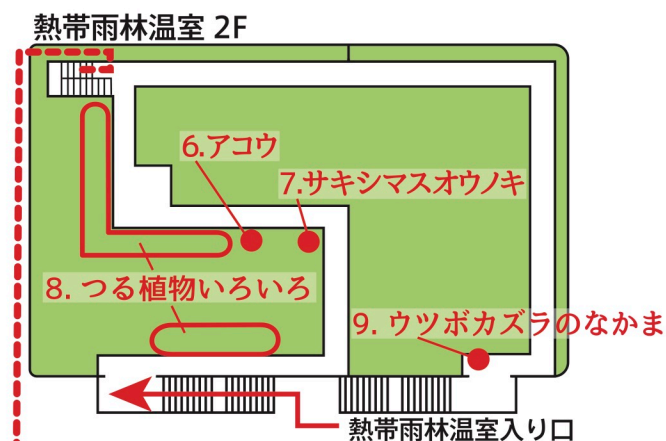
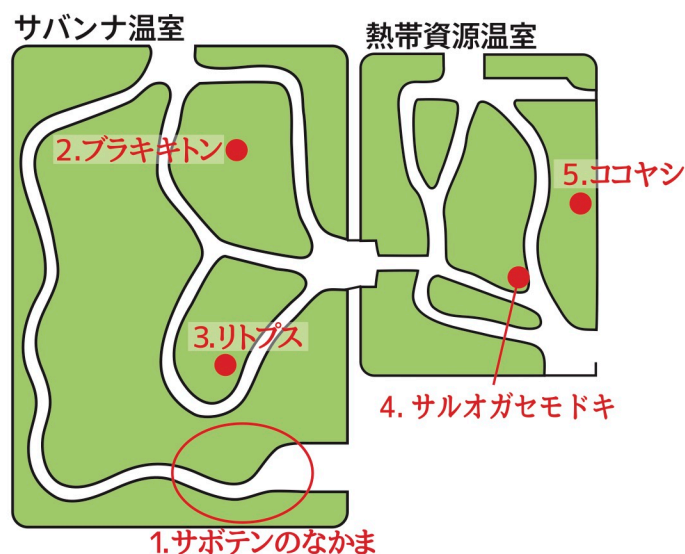


ふつう地上にでて長く伸び、植物のからだをささえたり、水や養分の通り道になります。



平らで緑色で、形は、卵のようなもの、針のようなものなど、いろいろです。太陽の光をあびて養分をつくります。

1 から順番に見つけていこう



【 】のなかに入る言葉は根？茎？葉？



1. サボテンのなかま (エキノカクツス、オプンチアなど) 水をためる太った【 】と、トゲようになった【 】が特徴です。乾燥地にくらすために、このような形になります。



2. ブラキキトン オーストラリアの乾燥地でくらしします。乾燥地は生きるために必要な水が不足しがち。そのため水をたくさん【 】にためています。その様子からボトルツリーと呼ばれます。



3. リトプス 生きている石ともよばれます。石ころのように見えるのは【 】で、まわりの景色にとけこみ、動物に食べられないよう自分の身をまもっています。



4. サルオガセモドキ 【 】がなくとも生き、【 】と【 】が空中や雨から水を取り入れてくらしします。



5. ココヤシ あたたかい場所でくらしします。実はジュースになります。きれいだ【 】は、長さが5メートルになるものもあります。



6. アコウ ほかのしゅるいの木の上で芽をだし、木の上からだんだん【 】を地面へのばします。やがて、くっついていた木は枯れ、場所をのっとるのです。【 】を地面におろす姿が、まるで木を絞め殺しているように見えることから、絞め殺し植物とよばれます。



7. サキシマスオウノキ 熱帯で大きくなる木は、板のような【 】をつくり体をささえます。(ばんこんとよばれます) ※園内の木は小さく見られません



8. つる植物 (コウシュンカズラ) 長くのびた【 】が木などにまきついてくらしします。こうすることで、木のようにからだを太らせて支えることなく、高いところへと伸び、くらしに必要な光をたくさん得ることができる、ちゃっかりものです。



9. ウツボカズラのなかま 食中植物の1つで、【 】の一部がつぼのように変形し、蜜やおいでつぼの中に虫をさそいこみ、なかにたまった水で虫を消化して、栄養とします。



10. アリノスシダ (レカノプテリス) ふくれた【 】には穴があいており、中にアリがすめるようになっています。アリノスダマは、アリがすむことで出るフンやゴミを栄養として植物は利用しているのです。



11. ショクダイオオコンニャク 【 】は地中でイモになり、栄養をたくさんたくわえます。木のように見えるのは、たった1枚の【 】で、幹のように見えるのは、葉と茎をつなぐ部分です (花の柄です)。十分な栄養をイモにたくわえると、花が咲きます。



12. マングローブ植物 川の水と海の水が入り交じる泥地に生えます。泥地で体を支えるため、へんな形の【 】ができます。オヒルギの【 】は、おれまがった様子から、膝【 】(しっこん)とよばれます。



13. タコノキ 幹や枝などのいろいろなところから【 】をだして体をささえます。そのようすをタコの足にたとえて、タコノキとよばれます。

筑波実験植物園マップ

